

公式ワナゲ

ワナゲの起源には諸説があり、ゲームとしては紀元前200年頃、ヨーロッパで馬の蹄鉄をステーキ（目標棒）に投げ入れて楽しんだのが最初とされています。それまでも棒状のものを投げる遊びはありま

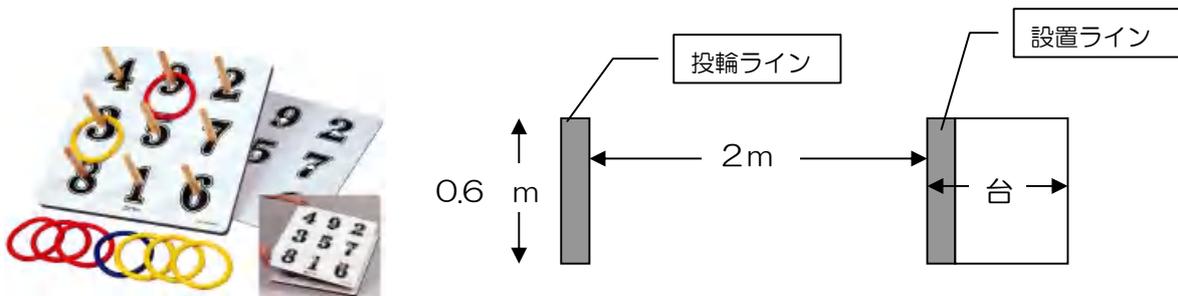
ましたが、リングに近いものを投げ入れるゲームは、この蹄鉄投げが最初のようなのです。

わが国では、縁日でのお遊び程度で、ゲームとしての進展は認められなかったものの、戦後まもなくワナゲをゲームとして再生するための独自のルールや用具が整備されました。その後1967年には簡易スポーツ研究会のメンバーを中心に日本ワナゲ協会が発足し、数回のルール改正を経て2002年4月から公式ワナゲの統一ルールとなりました。

1. 場所・コート

○屋外、屋内を問わず、平坦な場所に台を設置する。台の設置ラインと投輪ラインの間隔は2m。

※競技者の身体条件、技術レベルに応じて投輪距離を変更してもよい。



2. 用具

【台】木製60cm×60cmの白地、上段左より4・9・2、中段左より3・5・7、下段左より8・1・6の数字を茶色で印した台。各数字の上にはポールを固定し、台裏には傾斜をつけるための脚2本をつける。傾斜度は20°（±1°）

【リング（輪）】赤リング4本・黄リング4本・青リング1本の計9本。

ゴム製で外径17cm（±1mm）、内径13,5cm（±1mm）、肉厚12mm×9mm。
重量135g（±3g）。

3. リングの投法

（1）リングはどのように持って投げてもよい。

（2）投輪は両足とも踵を浮かさず、地面につけて行い、投げたリングが台もしくは床に接地し、静止するまで両足とも踵を浮かしてはならない。

（3）先に投輪したリングが完全に静止してから次のリングを投げる。

（4）必ず投輪ラインより後方から投げ、リングが静止するまではラインを踏んだり踏み越えたりしてはならない。

※上記に違反した場合は、無効リングとして取り除かれる。

4. 競技方法（ゲームの進め方）

【単独投輪方式】（参加者が多い予選会むき）

(1) 9本のリング（赤4・黄4・青1）を続けて投げる。

- ①ポールに入っているリングが無効リング（違反して投輪されたリング）によって外れた場合は、外れたリングを元通りポールに戻す。ワナゲ台に乗っていたリングが移動した場合は、そのまましておく。一度床に落ちたリングは、無効リングとしてその都度取り除く。
- ②ワナゲ台の上に乗っていたリングが、その後のプレーでポールに入った場合は、有効リングとする。

(2) 得点は、9本全部のリングを投げ終わった後、次のプレイヤーが計算する。

(3) 得点（図①・②参照）

- ①ワナゲ台のポールの下ある数字が得点となる。
- ②縦・横・斜のいずれか1列にリングが入った場合は、「一期の原則」により30点とする。
- ③全部のポールに1本ずつリングが入った場合は「上がり」で300点となる。

【交互投輪方式】（観戦者も楽しめる決勝むき）

(1) ジャンケンで勝った方が先攻（赤リング4本）、負けた方が後攻（黄リング4本）となり1投ずつ交互に投輪する。

(2) 4本ずつ投げ終わったら、点数を確認後、点数の低いプレイヤーには「アンカー権」が与えられる。 ※同点の場合はアンカー権は施行されない。

(3) 得点は、アンカーリング投輪後に、お互いの点数を確認する。（相互審判）

(4) 1試合は3セットで競い、2セット以降は前セットで負けた方が後攻になる。

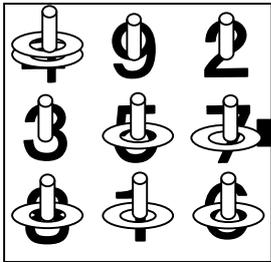
(5) 2セットで勝負がついても、3セット行う。

(6) ゲームの進行上、勝敗が必要な場合は、「一投勝ち」で決める。

※一本勝ちとは、各自一投ずつ投げ、点数の高い方を勝ちとする方法である。1投ずつで決まらない場合は、決まるまで行う。

(7) 得点の数は、単独投輪方式と同じである。 ※スコア記入の仕方は図③参照
1投勝ちにより安永の勝ち

図①



スコアカード②

4	2	9	□	2	□
3	□	5	1	7	1
8	1	1	1	6	1
30点×2列		60点			
他得点		11点			
総得点		71点			

スコアカード③

名前 セット	安 永	小 石
1	赤・黄 31	赤・黄 5
2	赤・黄 11	赤・黄 11
3	赤・黄 6	赤・黄 32
勝敗	1勝1敗1分	1勝1敗1分
総合計	48点	48点
一投勝	8	4